

2011年8月3日 新聞切り抜き情報（JAL決算関連）

○日経新聞

日航、4～6月は黒字確保 稲盛会長「目標上回る利益可能」 2011/8/3 21:36

日本航空が3日発表した2011年4～6月期連結決算は営業利益が171億円だった。東日本大震災で航空需要が落ち込む中、リストラの効果で黒字を確保した。稲盛和夫会長は12年3月期の営業利益目標（757億円）について「上回ることは十分可能」と強調。12年度の再上場に向け、再建が予定通り進んでいるとの認識を示した。

黒字確保の要因はリストラによる経費節減だ。不採算路線の撤退や減便で座席の供給量は前年同期より約28%減。グループで約1万6000人に上る人員削減に加え、「ジャンボ」など大型機を手放したことで航空機を効率よく使えるようになったことも大きい。

大西賢社長は会見で「客単価の高い顧客を確保するため、座席の安売りを避けた。客単価は前年同期比で国際線で28%、国内線で13%改善している」と述べ、営業面でも実績が上がったという。

日航は会社更生手続き中だった10年4～6月期の決算を公表していないが、営業利益は約180億円だったとみられる。数字だけを比較すると減益となるが、大西社長は「震災の直後でありながら、好況期であった前年同期並みの数字が出せた」と評価している。

売上高は前年同期より約1000億円少ない2549億円だった。

ライバルの全日本空輸の4～6月期連結決算は売上高が前年同期比1%減の3050億円、営業損益が81億円の赤字（前年同期は29億円の黒字）で明暗が分かれた。昨秋の羽田空港の国際化に合わせて路線を増強したため、国内線で震災の影響がより大きかった。

○毎日新聞

日航：171億円黒字...4～6月期 リストラや効率化奏功

日本航空が3日発表した11年4～6月期連結決算は、東日本大震災で旅客需要が低迷したものの、不採算路線の徹底的な整理や人件費・運航費用の削減など、会社更生手続き入りした昨年から実行してきたリストラ策や業務の効率化が奏功し、営業損益は171億円の黒字となった。

売上高は2549億円で、概算値で公表した前年同期の3500億円からは951億円の大幅減収となったが、営業損益（前年同期約180億円）は、横ばいに近い水準を確保した。

月次では、震災の影響で4月こそ営業赤字だったが、5～6月は黒字を確保。需要の落ちた路線の減便や休止を迅速に行う一方、被災地に臨時便を多数飛ばすなど、きめ細かな対応を取ったことが収益改善に貢献した。先に同4～6月期連結決算を発表した全日本空輸は81億円の営業赤字で、明暗が分かれた。

日航の売上高の主な内訳は、国際線788億円、国内線1004億円。部門別の損益は非公表だが、いずれも黒字だったという。

日航が更生計画で掲げた12年3月期の営業黒字目標額は757億円。4～6月期の実績に基づく年間の収益見通しを3日は公表しなかったが、同日会見した稲盛和夫会長は「今の状況なら何とか上回ると思うし、上回るよう努力したい」と話した。【三島健二】毎日新聞 2011年8月3日 21時33分

○ブルームバーグ日航：4－6月期連結純利益は**128億円**、通期利益目標超えも示唆 **(2)**

8月3日（ブルームバーグ）：経営再建中の**日本航空**は3日、2011年4－6月期の連結純利益が**128億円**、営業利益は**172億円**だったと発表した。経営再建に向けた不採算路線の大幅な削減などの合理化策が奏功し利益を確保した。日航の**稲盛和夫**会長は同日の会見で、同社が掲げている今年度の利益目標を上回る可能性についても言及した。

3日に発表した業績概況では売上高は**2549億円**となった。ただこの日は、通期業績見通しは示さなかった。厳密には比較対象とはできないものの、同社が更生手続き中の昨年7月に発表した前年同期の連結業績は、財産評定後の簡易試算（速報値）で営業利益は**164億円**、売上高は**3500億円**だった。

稲盛会長は、東日本大震災の影響などで4月は赤字だったが5月と6月は利益を確保できたと明らかにした。その上で、**東京地方裁判所**に認可された**更生計画案**に盛り込まれている「**11年度（11年4月－12年3月）の連結営業利益目標757億円**を超えることは可能だと考えている」と述べ、来年度の再度の上場に向け順調に経営改革が進展しているとの認識を示した。

会見に同席した**大西賢**社長は、現在のドル安円高の動向に関連して、営業利益が「1円の円高推移で約**20億円**のプラスとなるものの、顧客の利用面でのマイナスの影響などもあり一概にプラスとは言えない」と慎重な言い方で為替動向を注視する姿勢を示した。

また、大西社長は震災と原発事故以降の旅客の需要動向について「全体として戻りきってはならず、特に東南アジアからの需要はまだだ」とし「再上場に向け企業価値を高めて、市場の信頼を勝ち得ることに注力する」と強調した。

○読売新聞

日航**171億円**黒字、更生計画上回る見通し

日本航空が3日発表した2011年4～6月期連結決算は、本業のもうけを示す営業利益が**171億円**の黒字となった。東日本大震災の影響で旅客需要が落ち込んだが、円高による燃料費抑制や、不採算路線からの撤退や航空機の小型化などコスト削減が効果を上げた。売上高は**2549億円**、税引き後利益は**127億円**の黒字だった。

更生計画で12年3月期の営業利益は**757億円**を見込んでいるが、4～6月期で約**23%**を達成した。稲盛和夫会長は3日の記者会見で、「更生計画は何とか上回ると思う」との見通しを示した。
(2011年8月3日20時37分 読売新聞)

○共同通信

日航、営業利益**171億円** 4～6月

日本航空が3日発表した2011年4～6月期連結決算は、本業のもうけを示す営業利益が**171億円**となった。東日本大震災の影響や、経営再建の一環で路線を減らしたことで利用客数は減少したが、経費節減効果で黒字を確保した。純利益は**127億円**だった。

日航は12年度中の再上場に向け、12年3月期に営業利益**757億円**を目標に掲げている。日航の稲盛和夫会長は「計画を超える結果を出すのは十分に可能」と述べ、再上場に向け業績は堅調との認識を示した。

売上高は**2549億円**。利用客数は**752万9495人**で、震災などにより前年同期に比べると**31.2%**減だった。

○日経新聞

日航、4～6月純利益**127億円** 大西社長「予約は好調」 2011/8/3 16:35

日本航空が3日発表した2011年4～6月期連結業績は、純利益が**127億円**だった。円高の恩恵を一部で受けたが、

東日本大震災の影響で旅客需要が不振だった。売上高は2549億円、営業利益は171億円で、更生計画の目標に対する進捗率は23%。前年同期は更生手続き中だったため「業績の比較はできない」（同社）という。

同日記者会見した大西賢社長は冒頭、「震災の影響はまだ収束していない」と言及。ただし、企業の節電対策で夏季休暇が長期化していることに触れ、「(座席の) 予約状況は好調だ」とも語り、早期の業績回復に期待感を示した。同社は更生計画で、12年3月期に「売上高1兆2229億円、営業利益757億円」という目標を掲げている。〔日経QUICKニュース〕

○日経新聞

日航・稲盛会長「良い成績」 4～6月業績 2011/8/3 16:36

日本航空の稲盛和夫会長は3日の定例記者会見で、2011年4～6月期連結業績について「良い成績だ。年度計画はなんとか上回ると思うし、(計画を) 超える成績を残したい」と述べた。12年3月期の営業利益目標757億円に対し、4～6月期は171億円だった。

東日本大震災が業績に与えた影響については「背筋が寒くなるほどの大きなダメージを受けたが、社員が一体となって克服してくれた」と振り返った。〔日経QUICKニュース〕